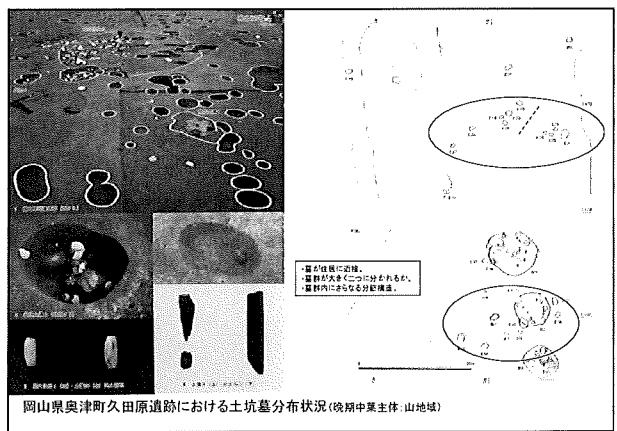
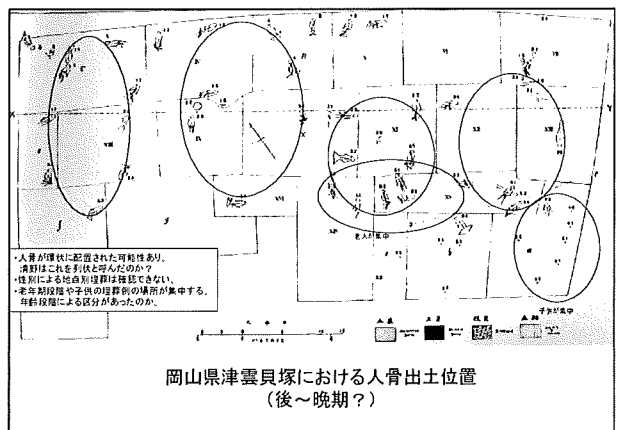
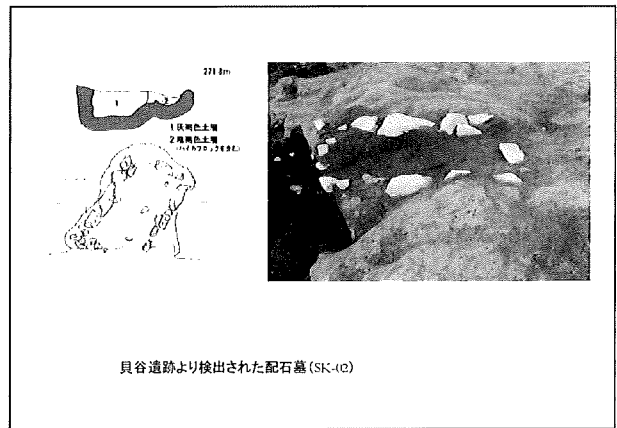
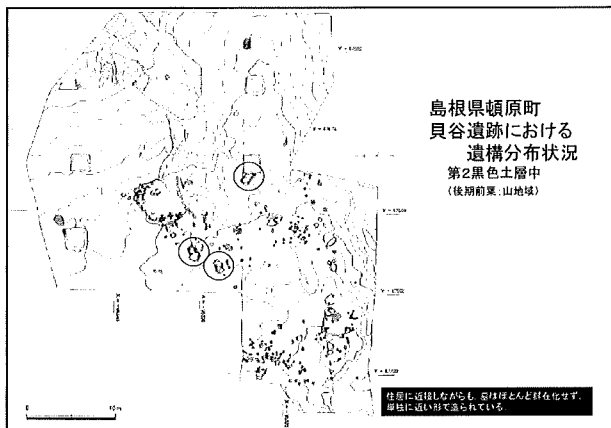
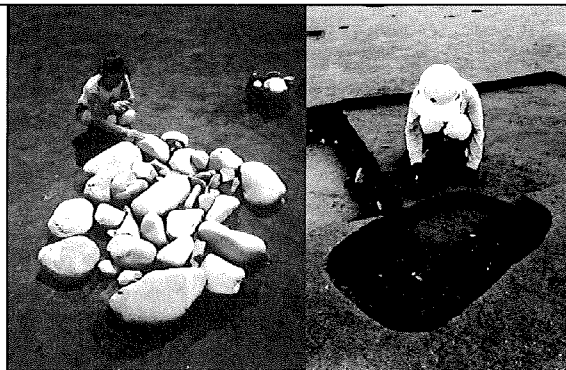




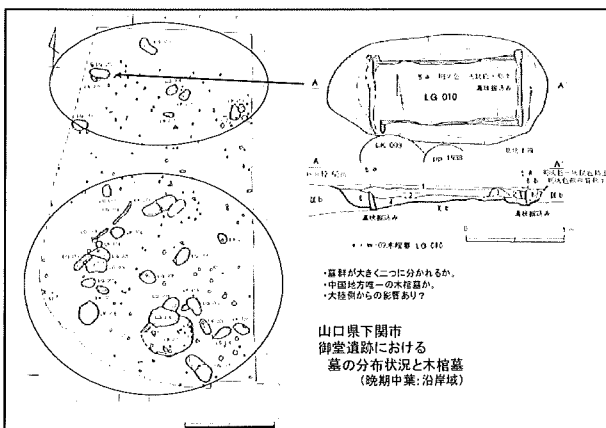


島根県奥出雲町原田遺跡の配石墓



原田遺跡における環状配置墓域

32



中国地方における縄文時代の墓

- 埋葬形態は、基本的には単独・単葬例が多いが、合葬・複葬例もみられるなど多様である。
- 埋葬姿勢は、膝を強く曲げる屈葬が多い。
- 土壇の形状は、基本的に楕円形ないし不整形円形が多く、規模は長径1.0m～1.6m程度のものが多い。また、貯蔵穴の転用と思われるものも存在する。
- 早期からすでに群在化し、埋葬小群が存在する場合もある。
- 墓群の形態は、塊状ないしは環状を呈するものが多い。
- 環状配置をとる墓群の中心に何らかの特殊な遺構をもつものがある。

さて、弥生時代とは？

- 日本で食糧生産を基礎とする生活が開始された時代(佐原1975)。
- 具体的な考古学上の証拠としては、灌漑水田が作られてから代表的な古墳の形である前方後円墳が作られるまでの期間、と捉えることが多い。
- もちろんこの説にもいろいろ問題はあります。

なぜ水田稲作が大事なのか？

- なかでも灌漑水田稲作は重要。
 - 土地の計画的な利用が行われた。
 - 大規模な土木工事が必要。
 - 施設の管理が必要。
 - 専用の道具が必要。
- 階層・階級化社会への引き金となる可能性が高いと考えられている。

稲作を証明する考古学的証拠

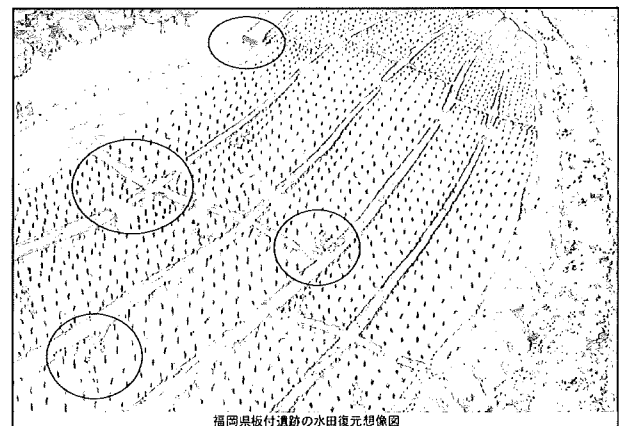
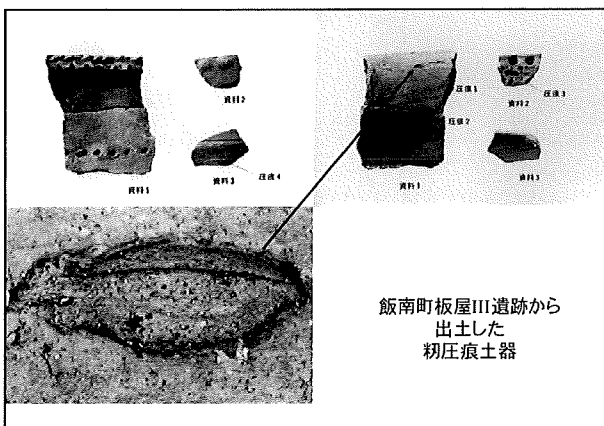
- 耕作地点の発見→水田・畑など
- コメそのものの出土
- 稲作関連の植物遺存体の出土
→水田雑草・プラントオパールなど
- 専門の農具の出土→鍬や鋤など
- 遺跡立地の変化→台地上から低地への進出
- 生活道具の組み合わせの変化→狩猟具や呪術具の減少
- 以前の文化との差異→人口の急激な増加・社会的変質

現在最も古い稲作関連の資料

- 島根県板屋Ⅲ遺跡から出土した籾圧痕土器
→縄文時代晩期・突帯文土器の事例

籾圧痕土器の例

- 熊本県石の本遺跡・岡山県福田貝塚(後期)など縄文時代後期には確実な資料があるとされたが...
- 基本的には縄文時代晩期後半をさかのぼる資料は、なかなか存在しないようだ。
- けれども突帯文土器の時期になると急に多くなる。
- 北部九州では水田も見つかっている。
→弥生時代早期として扱う研究者も多い。

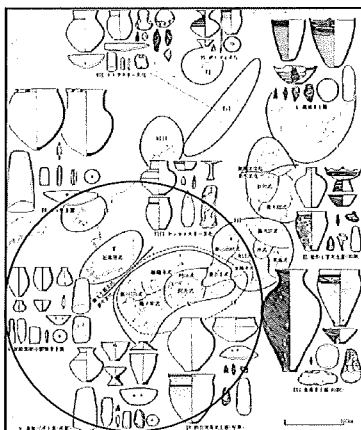
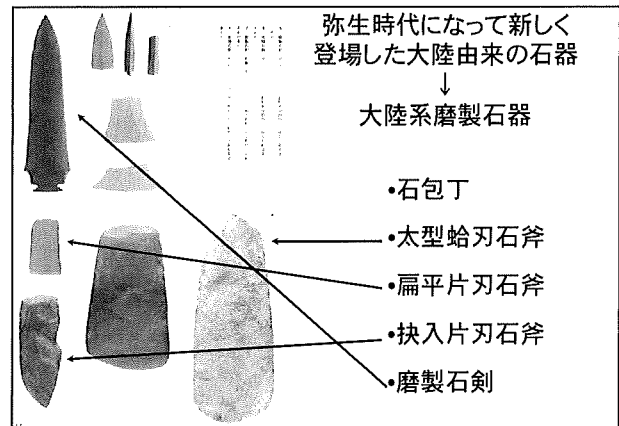


なぜコメなのか？

- 美味しい？
- 食料として優秀。
- 保存や加工、移動が容易。
→交換財としての価値が大きい。
→グリーンウェイポン(食糧を駆け引きの材料にする)としての側面がある。
- 政治的な意図
→収奪の対象となりやすい。
→水田を隠すのは難しい。

弥生時代の水田農耕の伝播

- 灌漑水田稲作が非常に完成された形で入ってきた。
- 生業を中心とした社会のあり方が、短期間のうちに大きく変化した。⇒特に社会構造や精神文化の変容が著しい。
- 当時の情報伝達手段を考えた場合、このような文化の日本列島への流入は、単なる文化接触によるものではなく一定規模の人の移住を伴うものであったと考えられる。
- 考古学的にみた場合、直接的な移住者の出発地点は、朝鮮半島南部およびその周辺らしい。



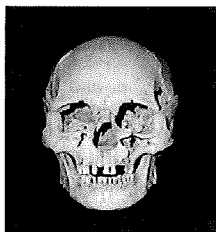
弥生時代前期の
道具の組みあわせ

石包丁・太型蛤刃石斧
挟入片刃石斧などの大陸系
磨製石器の形状は朝鮮半島
と共通するものが多い。

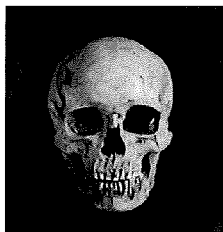
灌漑水田稲作に伴って大陸側より人の移住があったことは、
まずまちがいない。

では、それはどのような人々だったのか？

縄文人の顔つき



岩手県宮野原出土人骨



埼玉県妙音寺岩陰出土人骨

顔高・眼窩の形・鼻根部の突出・エラの張り方に注意

縄文人の復顔想像図

